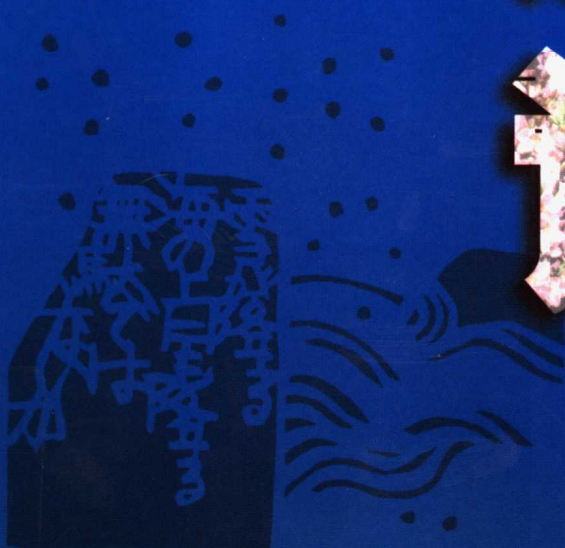


胡振平 主编

第5册

现代 日语



上海外语教育出版社

WJ
外教社

胡振平 主编

第5册

现代

日语

WJ
外教社

上海外语教育出版社

图书在版编目(CIP)数据

现代日语. 第五册/胡振平主编. —上海: 上海外语教育出版社, 2003

ISBN 7-81080-422-7

I. 现… II. 胡… III. 日语-高等学校-教材

IV. H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2002) 第 017531 号

主 编 胡振平

副主编 肖传国 王军彦 姚灯镇

许宗华 臧运发

编 者 (以姓氏笔划为序)

马兰英 王军彦 许宗华

李先瑞 李 伟 何建军

肖传国 吴 宏 张苏芸

胡振平 姚灯镇 贾友江

徐 卫 盛文忠 臧运发

出版发行: 上海外语教育出版社

(上海外国语大学内) 邮编: 200083

电 话: 021-65425300 (总机), 35051812 (发行部)

电子邮箱: bookinfo@sflap.com.cn

网 址: <http://www.sflap.com.cn> <http://www.sflap.com>

责任编辑: 应 允

印 刷: 上海长阳印刷厂

经 销: 新华书店上海发行所

开 本: 890×1240 1/32 印张 9.125 字数 267 千字

版 次: 2003 年 8 月 第 1 版 2003 年 8 月 第 1 次印刷

印 数: 3 200 册

书 号: ISBN 7-81080-422-7 / H · 171

定 价: 10.80 元

本版图书如有印装质量问题,可向本社调换

前 言

《现代日本语》是高等院校日语专业使用的精读教材,是高等院校外语专业面向 21 世纪教学内容和课程体系改革的立项课题,属于教育部科研项目。本教材内容充分反映快速变化中的时代,有助于学生素质的培养;外语知识、语言训练和相关知识有机结合,处置合理;教材的框架设计、布局结构有助于提高学生的思维创造能力及鉴赏能力;在注意传授基础知识的同时,充分考虑到内容的实用性、针对性和科学性。

《现代日本语》共 6 册(另附 1 册课文练习参考答案),即基础阶段 4 册,高年级阶段 2 册。前 4 册每课由会话、课文、单词、语法、练习、语言文化之窗等部分构成,单词、语法及语言文化之窗均用汉语注释或解说。第 5、6 册每课由课文、单词、语法、练习、语言文化广场等部分构成,单词、语法及语言文化广场部分均改用日语注释或解说。为了给广大的学习者提供方便,我们编写了课文练习题的参考答案。

《现代日本语》课文题材多样,内容丰富。课文内容除传统的语言、文学之外,还包括充分反映快速变化时代的社会、文化、经济、外交、科技及计算机等内容。使学生在掌握语言知识、基本技能的同时,了解现代的日本社会。

根据教学大纲的要求,一年级应掌握词汇 2 300 个,二年级应掌握 3 200 个,本教材 1~4 册出现词汇约 5 500 个。5、6 册随着课文难度增大,词汇量递增。与其他课程配合,高年级掌握词汇量应达到 10 000 个左右,基础语法约 250 项,基本句型约 350 个,常用语法功能词约 110 个。本教材紧扣大纲要求并突出语言的交际功能,使学生学以致用,培养思维创造能力,提高语言交际能力。

练习部分充分考虑到读、听、说、写、译五种能力的全面发展,题型灵活多样并按单元配有综合练习题。

除语言文字的注释外,本教材还有针对性地对日语的特点、日本人的心理特征、日本的风俗习惯等文化背景知识作了简要注释和说明。

《现代日本语》的编写,较好地贯彻了日语教学大纲的精神,是高校日语专业一部理想的教材和参考书。

本教材配有日籍教师录制的磁带。

编 者

2003 年 4 月

使用说明

本书为《现代日本语》第五册,供高等学校日语专业三年级学生第一学期使用。旨在帮助学生在练好日语的词汇、句型、语法等基本功的同时,着重培养学生的阅读、理解、翻译等综合技能。

本册共 10 课。每课由课文、生词、句型、语法、词语用法、练习及语言文化广场等部分组成,在本书最后附有单词索引、句型索引、语法索引、词语用法索引及课文参考译文。

本册编有 823 个常用生词、40 个基本句型、23 条基础语法、74 个重点词语的用法。生词表中所注生词为课文中出现的单词,练习中的生词要求学生自己查出,以培养学生使用工具书的能力。课文均选自日文版原文(有的地方酌情删改),题材多样,内容丰富;句型多为常用例句;练习是培养学生综合能力的重要组成部分。为了配合学生参加国家教委组织的高校日语四、八级考试和日本国际交流基金组织的日语能力考试,除编入本课所学句型、语法、词语的练习外,还补充了与考试有关的句型、词语、惯用句、谚语等专项练习;阅读理解练习选自日本国语教材或日语能力考试题库;汉译日部分为成段文章,以培养学生通过上下文的语境综合分析、判断翻译大段文章的能力;语言文化广场是为学生更多地了解日本社会文化及语言知识而设。

每课课后都附有生词表,并标注了声调类型(大多是根据金田一春彦等编写的《新明解国语辞典》标注),所标词义为常用词义或本课出现的词义,〈 〉中的词语是词性的略语,分别为:

- | | | |
|----------|------------|-----------|
| 〈名〉——名词 | 〈代〉——代(名)词 | 〈數〉——数词 |
| 〈形〉——形容词 | 〈形動〉——形容动词 | 〈動〉——动词 |
| 〈副〉——副词 | 〈接頭〉——接头词 | 〈接尾〉——接尾词 |

〈他〉——他动词

〈自〉——自动词

〈五〉——五段活用动词

〈上一〉——上一段活用动词

〈下一〉——下一段活用动词

〈サ〉——サ变活用动词

〈力〉——力变活用动词

〈感〉——感叹词

由于语法、句型讲解详细,课文也配有汉语译文,所以也适合自学者使用。



第一課 沈黙の世界	1
新出単語	
文型	
文法	
言葉の使い方	
練習	
言語文化広場	
第二課 時候の挨拶	24
新出単語	
文型	
文法	
言葉の使い方	
練習	
言語文化広場	
第三課 日本の経営と今後の課題	48
新出単語	
言葉の使い方	
練習	
言語文化広場	

第四課 日本政治の特質と政党の変遷	67
新出単語	
文型	
文法	
言葉の使い方	
練習	
言語文化広場	
第五課 休日 of 真珠湾に殺到する日本機	91
新出単語	
文型	
文法	
言葉の使い方	
練習	
言語文化広場	
第六課 中学生時代	123
新出単語	
文型	
言葉の使い方	
練習	
言語文化広場	
第七課 暗号で散華した山本長官	148
新出単語	
文型	
文法	
言葉の使い方	
練習	
言語文化広場	
第八課 美を求める心	177
新出単語	
文型	

文法	
言葉の使い方	
練習	
言語文化広場	
第九課 自然と人間	198
新出単語	
文型	
文法	
言葉の使い方	
練習	
言語文化広場	
第十課 他人と遠慮	221
新出単語	
文型	
文法	
言葉の使い方	
練習	
言語文化広場	
付 録	243
新出単語の索引	245
文型の索引	258
文法の索引	259
言葉の使い方の索引	260
本文の参考訳文	262

第一課

沈黙の世界

加藤秀俊

満員電車で、乗客たちの行動を見ていて気がついたことがある。それはこのおびただしい数の、押しつぶされた人間たちが、例外なしに無表情で、しかも無言だ、という事実である。みんな、むっつりと黙って、つまらなそうな顔をしている。もとより、満員電車に乗っているということは、あんまり愉快的な経験であろうはずがなく、この何千何万の通勤者たちが、いわしの缶詰めのごとくにつぶされ、なおかつ、にこにこおしゃべりをしているとするなら、それこそ不気味というべきであろう。無表情・無言、ということこそ、こうした場合の人間性なのである。

だが、その無表情、無言も程度問題だ、とわたしは思う。とりわけ、満員電車から降りるときに、無言で人を押しのけ、ドアに向かって移動する人々にぶつかると、なんとなく、変な気持ちになる。それは、あたかも人間のかたまりのまんなかを貫通して、巨大なモグラが動いているような感じなのだ。押しのけるほうも、押しのけられるほうも、ひたすら無言。それがわたしには不思議なのである。

同じようなことを、わたしは、例えばデパートのエレベーターなどでも経験する。ある階で止まると、突然に、奥の方から無言のモグラが動いてくる。突然だから、こっちもびっくりする。いずれにせよ、あんまり、いい気持ちのものではない。

ちょっとひと言、声をかけてくれればいいのに、と思う。「降りますよ。」「ごめんなさい。」そういう簡単なひと言がかけられれば、こっちもそれを一つの準備刺激として、通過する空間を作るべく努力できるはずである。そして、「どうぞ。」という反応の言葉も、おのずから出てこようというものだ。黙って、やたらに背中を押されていたのでは、何が何やらわからず、不愉快な思いをせざるをえない。

そのうえ、このモグラ人間の中には、しばしば、押し分け、かき分けながら、周りの人間たちを一種の敵意に憎悪に満ちたまなざしでにらみつける連中がいる。あたかも、自分が脱出のため四苦八苦しているのは、周りの人間たちがいけないからだ、といったような表情がそこにはある。そういう表情でにらまれると、こっちも腹が立ち、出してやるものか、といった気持ちがかすめる。したがって、譲り合うというよりも、押し合う姿勢をとらざるをえなくなり、満員の電車やエレベーターは、ますます不愉快な経験となる。

さまざまなサービスの場面でも、われわれは、おしなべて沈黙民族だ。例えば喫茶店でコーヒーを一杯飲むときがそうだ。ウェートレスが注文をとりに来る。われわれの多くは、ただ「コーヒー。」と一言事務的につぶやく。彼女は、やがて無言のままコーヒーと伝票を、これまた事務的にポンとテーブルの上に置き、お客のほうも、黙々とコーヒーを飲み、金を払って帰ってゆく。これもまた、どうにかならないか、とわたしは思う。

こんなことを言うのも、ひょっとすると、わたし自身がアメリカやヨーロッパで暮らしたり、滞在したりした時の経験が背景にあるからなのかもしれない。同じ一杯のコーヒーでも、欧米、とりわけアメリカの社会では、だいぶ様子が違うのである。

例えば、アメリカでコーヒーショップに入る。ウェートレスはメニューを持って、「おはようございます。ごきげんいかが?」と、まずこうくる。こっちのほうは、それに答えて、「ありがとう、まあまあだね、ところで……。」と、とにかく、何かものを言わざるをえない仕掛けになっているのである。そして、そういう、行きずりの人間関係のウォー

ミングアップの後に、コーヒーが運ばれてくるわけで、したがって、彼女のほうは、「お待たせしました。さあどうぞ。」ということになり、こちらとしても、「ありがとう。」という言葉が自然に出てくるものなのだ。

もとより、こんなふうにして交わされる二言三言の会話に実用的意味があるか、といえは、答えは否である。別にお天気がよかろうと悪かろうと、あるいは当方のきげんがどうであろうと、そんなことは実のところ、問題ではない。要するに、この種の「会話」は、言葉の「意味」に照らして考えてみたら、全く無意味という以外に言いようはないのである。しかし、この無意味なる会話のあるなしによって、人間どうしのかかわり合いの形は、ずいぶん異なったものになる。早い話、ぶすっ、と押し黙ったウェイトレスがガチャリとテーブルの上に置いてゆくコーヒーと、にっこりほほえんで、「さあどうぞ。」と置かれるコーヒーと、どっちがあなたにとっておいしいか。

日本文化が沈黙によって支配されているのは、いったいなぜか。——これは歴史的にも社会的にも、きわめて興味ある問題である。柳田国男先生がその著作の中で繰り返し指摘されたように、日本の民衆生活の中で、おしゃべりというものがマイナスの価値をもち、ただ黙々と働くことが美德とされてきたこと、そして、更に、そんなわけで「もの言うすべ」を身につける機会を日本人の多くがもたなかったことも、その一因だろう。また、いちいち、あれをこうしろとか、こっちをどうしろとか、言葉を使わないでも、以心伝心式の方法でどうにか社会を維持してきたという実績が、沈黙への自信を深めている、とみることもできる。それに、日本文化の中では、べらべらおしゃべりをするということは、処世術的にいって、おおむね損なことだ。出世しようと思ったら、ひたすら沈黙を守っているにこしたことはないのである。

わたしは、日本文化の改造などというだいそれたことに気焰をあげたくはない。しかし、満員電車から降りるときには「すみません、降りますよ。」というひと言を、また何かのサービスを受けたときには、

「ありがとう。」というひと言を口にするという簡単な習慣が、一人でも多くの日本人の中に定着してほしいと思う。旗を立てて絶叫するのもけっこうだが、ふだんの小さな会話を大事にしたいと思う。それだけで、ずいぶん身边は明るくなるにちがいないのである。

新出単語

沈黙 [ちんもく]⑩<名・自サ>

加藤秀俊 [かとうひでとし]<名>

おびただしい [夥しい]⑤<形>

押し潰す [おしつぶす]④<他五>

無表情 [むひょうじょう]②<名>

むっとり ③<副>

黙る [だまる]②<自五>

もとより [元より]①<副>

あんまり ①<副>

愉快 [ゆかい]①<形動>

いわし [鰯]⑩<名>

黙り込むこと。

(1930～)社会学博士。マスコミ論、世相論、大衆文化論、比較文化など多角的に現代社会を洞察してきた行動派の社会学者。著書に『加藤秀俊著作集』他多数。(数量が)非常に多い。

(1) 押して潰す。(2) 強い力で潰す。

喜怒哀楽の表情の動きがない様子。

無愛想で口数も少なく、不快の感情を抑えていることを表す。

物を言うのをやめる(状態を保つ)。

最初からそういう考えであったり元来そのような性質であったりすることを表す。

「あまり」の強調表現。(下に打消しの語を伴い、副詞的に使う)それほど(……ない)。たいして(……ない)。

そのものの持つおおらかさ・面白さ・楽しさが、日常たまったストレス・わだかまりや憂鬱などを一時忘れさせ、しばらくの間伸びやかで満ち足りた気分にさせる様子。

各地の沿岸でとれる代表的な大衆魚。マイワシ・ウルメイワシ・カタクチイワシなど。体は細長く、背中が青緑色で腹は銀白色。食用。また、肥料用。

缶詰め [かんづめ]③④<名>

つぶす [潰す]⑩<他五>

なおかつ [尚且つ]①<連語・副>

にこにこ ①<副>

おしゃべり [お喋り]②<名>

不気味 [ぶきみ]⑩①<形動>

人間性 [にんげんせい]⑩<名>

とりわけ [取分け]⑩<接>

押し退ける [おしのける]④
<他下一>

あたかも [恰も]①<副>

固まり [かたまり]⑩<名>

貫通 [かんつう]⑩<名・自他サ>

巨大 [きょだい]⑩<形動>

モグラ ⑩<名>

ひたすら [只管]⑩<副>

いずれにせよ ⑤<連語>

食品を缶に詰め、加熱・滅菌し、堅く封をして、長く保存できるようにしたもの。

(外部から力を加えて)原状が認められないようにしたり元来の機能を失わせたりする。

マイナスの状況が呈示されているにもかかわらず、所期の行動をとることを表す。笑いを浮かべた、嬉しそうな顔をすることを表す。

(肩の凝らない話題で)人と雑談をすること。また、その雑談。むだ話。

なんとなく気味が悪い様子。

人間の本性。人間らしさ。

前に述べた事柄の中から、特にそれを重要な問題として取り上げることを表す。人を押して、そこにいられなくする。

その時点におけるそのものの状態を印象的に説明するために、ややオーバーな解釈を施して寸評したり格好な類例を挙げて大体の性格を描写したりすることを表す。

元来粒状(粉状・液状)だったものがそれだけで一つの形を取って固まったもの。

そこに穴を開けて、反対側まで抜けて通ること。

同類に属するものより、規模がはるかに大きい様子。

土の中に住む、小さいけもの。ネズミに似て、目が小さく、前足が土かきの役をする。田畑の作物を荒らす。

他のことはすべて無視して、そのことばかりに意を用いることを表す。

(1) 二つの場合のどちらになるにしても。

(2) どうなるとしても。

おのずから [自ずから]⑩<副>

やたら [矢鱈]⑩<形動>

押し分ける [おしわける]④<他下一>

かき分ける [掻きわける]④⑩

<他下一>

敵意 [てきい]①<名>

憎悪 [ぞうお]①<名>

満ちる [みちる]②<自上一>

にらみつける [睨み付ける]⑤

<他下一>

連中 [れんちゅう]⑩<名>

脱出 [だっしゅつ]⑩<名・自サ>

四苦八苦 [しくはく]③<名>

にらむ [睨む]②<他五>

かすめる [掠める]⑩③<他下一>

譲り合う [ゆずりあう]④<他五>

おしなべて [押し並べて]③<副>

ウェートレス ②<名>

事務的 [じむてき]⑩<形動>

伝票 [でんぴょう]⑩<名>

ポンと ①⑩<副>

黙々 [もくもく]①<副>

自分からそうしようと思わなくても、事柄の性質上(物事の進展上)必然的にそうなることを表す。

物事に根拠や秩序のない様子。むやみ。

力ずくで分けるようにする。

手の先で左右へ押し分けるようにして、道を開く。

相手を、自分に反抗し危害を加える者と思い込み、機会あらば押さえつけてやろうとする心。

そのものの存在や、その事態の存続をそれ以上許してはおけないという気持ちになること。

(限度まで)一杯になる。

(相手を畏縮させるために)険しい目でじっと睨む。

仲間と見なされる人びと。

危険な(居たくない)場所から逃げ出すこと。

(つらいことが多くて)非常に苦しむこと。

鋭い目つきで見つめる。

ほんの少しで触れるほど近づく(近いところを通して、さっと行ってしまう)。

互いに譲る。双方ともに譲る。

関連するもののすべてにわたってその傾向が見られ、例外がないことを表す。

(食堂・喫茶店などで)客の注文した飲食物を運んだりする女性。

感情を交えないで、仕事本位に片付ける様子。

(銀行・会社・官庁などで)お金の出し入れや物品の授受などを記録・確認し連絡するために使う紙片。

勢いよく動作する様。

周囲を顧慮せず、自分のペースを保って

ひょっとすると ⑩①<副>

コーヒーショップ ⑤<名>

メニュー ①<名>

仕掛け [しかけ]⑩<名>

行きずり [ゆきずり]⑩<名>

ウォーミングアップ ⑦<名>

二言三言 [ふたことみこと]<名>

否 [いな]①<感>

照らす [てらす]⑩②<他五>

関わり合い [かかわりあい]⑩<名>

早い話が [はやいはなしが]②

<連語>

ぶすっと ②<副>

押し黙る [おしだまる]④<自五>

ガチャリ ②③<副>

にっこり ③<副>

柳田国男 [やなぎたくにお]<名>

美德 [びとく]⑩<名>

(仕事をして)いる様子。

物の弾みでそうならないとは限らないことを表す。

コーヒーを売る商店。

献立(表)。

その物の機能を発揮させるために考案された、各部分の結合のさせ方や全体の構造のあり方。

どこかへ行く途中で始めて知り合ったこと。

(試合や競技の開始前に行う)体をならすための軽い準備運動や練習。

二つの言葉三つの言葉。簡単に締め括った言葉。

違う・そうではない・不同意だという気持ちを表す言葉。

何かを規準として、判断を下す。

互いに関係し合うこと。

簡単に言うと。つまり。

怒りや不満を小声(陰)で言うことを表す。

(意地を張るかのよう)に全く物を言わないでいる。

小さい堅いものが互いにぶつかりなどして発する音。

いかにも嬉しいという気持ちを顔に表す形容。

(1875~1962)民俗学者。兵庫県の人。東大卒。貴族院書記官長を経て朝日新聞に入社。民間にあつて民俗学研究に専念。民間伝承の会・民俗学研究所を設立。「蝸牛考」「桃太郎の誕生」「民間伝承論」など著作が多い。

その人の持っている性質とその人のした行いの中で、褒められるべき点。